

| | |
|----|-----------------------|
| 公表 | 事業所における自己評価総括表（放課後デイ） |
|----|-----------------------|

| | | | |
|-----------------------|--|-----|----------------|
| ○事業所名 | 児童発達支援・放課後等デイサービス こども通所サービスにじいろ（放課後デイ） | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 1月 6日 | | ~ 2025年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 15人 | (回答者数) 12人 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 1月 20日 | | ~ 2025年 2月 7日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5人 | (回答者数) 5人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 2月 10日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | こどもの様子や現状を細かく把握し、すぐに的確な支援につなげられるように、保護者による送迎を実施している。 | 送迎時、保護者が話しやすいと感じられるような環境作りに努めている。また、小さな困り事なども気軽に話せるように、職員から進んで声をかけるように心がけている。 | どの職員でもしっかりと保護者への対応ができるように、職員研修の中に傾聴に関する内容を取り入れスキルアップをしていく。 定期的なモニタリングだけでなく、必要に応じて相談の機会を随時設けていく。 |
| 2 | 音楽専門の資格だけでなくSSTを取得した職員が音楽遊びを担当したり、保育士や教員免許をもった職員が成長に合わせたプログラムを提供している。 | リトミックを取り入れた音楽遊びを通して、楽器に触れたり、リズム感を身につけたりして表現力を養うことを目指している。 専門職が関わることにより、個々の成長段階に合わせた活動を提供し、自己肯定感をつけていけるようにしている。 | 専門の資格を持つ職員と他の職員が共通知識を持ち、全員がこども一人ひとりの力が引き出せるように心がけていく。 こどもの苦手分野を的確に捉え、様々なアプローチの種類を増やしていく。 |
| 3 | にじいろとにじいろプラスと合同で保護者会を開催している。 | 保護者同士が交流できるように保護者会を開催している。先輩保護者の経験談を聞いたり、みんなが話しやすいようグループに分けたり工夫している。 | 就学・就労にあたり、提案できる施設についての情報収集や施設見学に努める。 様々な施設や学校との連携を深め、情報共有ができる関係作りを構築していくことにより、こどもに的確な居場所を保護者と共に考えていけるようにしたい。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---------------------------|--|
| 1 | 地域の中にあるいろいろな施設との交流活動する機会が少ない。 | 他の施設等との時間の調整連絡がうまくできなかった。 | 他のいろいろな施設との日程調整等を計画的に進め、積極的に連携しけるように取り組んでいく。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |